

新1年生・入団説明会（第二回）

<日時・場所> [このページは8月19日に掲載したものです](#)

8月22日（土）午後3時から（1時間程度を想定しています）雨天決行（どしゃ降りを除き）

しろがね第二公園 武蔵野市立第二小学校の道路を挟んだ南側の大きな広場です。

なお、2年生については既に随時、入団を受け付けておりますが、「ここでの説明を聞きたい」という方の参加は歓迎です。

<持ち物>

筆記用具

印鑑（入団申込書と承諾書に捺印していただきます）

現金4千円（入団費1千円+団費（1年分）3千円）お釣りのなきようご注意ください。

（注）入団申込書と承諾書については、ホームページからダウンロード・印刷できる方、事前に印刷し、記入・捺印いただき持参くださると手続きがスムーズです。

ダウンロード・印刷が無理な方は、現地で記入・捺印いただきます。

（注）ダウンロード・印刷が可能な方は、**関前サッカークラブ規約と入団のしおり**についてもご持参いただくと良いかもしれません。現地にて当方から説明する資料となります。

<説明会で話を聞いても忘れがちなこと>

1) しろがね公園、自転車のおきて

1年生・2年生は、自宅と練習場所との往復は保護者の責任で送り迎えしていただきます。徒歩あるいは自転車など、保護者の判断で決めていただいて結構ですが、いずれにせよ子供と一緒に往復していただきます。（関前南小での練習時は、南小に通学する子は徒歩限定）

しろがね公園に来るとき・帰るとき、公園に隣接している歩道はととてもせまく、徒歩で通行している一般の市民に脅威・恐怖を与えないように、自転車を降りて、自転車を引きながら徒歩で通行してください。これを破ると市民の反発がすごく、しろがね公園を練習場所として市役所から借りている私たちが苦しい立場に置かれます。

なお、自転車ではヘルメット着用義務があることをお忘れなく。

2) 「名前」の記入

あらゆるものに名前を書いてもらいます。名前を書いていないとみんなの前で「これ、誰の？」という儀式により、子供がとても恥ずかしい目に遭います。

このページへのご質問などは以下に：

laobotang@yahoo.co.jp 低学年コーチ佐藤宛

<次ページあり> ただしいずれも7月14日以前の掲載内容です。

<ボールについて> このページは7月5に掲載したものです

体験会の段階でボールを購入する必要はありません。本人の、「サッカーをやる」という意志が確認できた後でも決して遅くありません。このページでは「どうせ買うなら適したものを」という主旨で当クラブの考えをお伝えしようと思います。

1) 最初のボールは何でもよい

既にボールをお持ちの方、そのボールでOKです。大人用の大きなボールでない限り、それで十分です。

世界の名選手たちにとっての「最初のボール」は、必ずしも理想的なものではありませんでした。古い話で申し訳ありませんが、イケメン天才ドリブラーのジョージ・ベストの保護者にはボールを買う余裕がなく、拾ったテニスボールを使っていたといえます。

2) 大事なことは「身体を動かすこと」そして「運動神経を発達させること」

運動神経と呼ばれる神経が存在しています。「身体をこう動かそう」と思ったときに、筋肉を動かす神経細胞たちです。次第に「考える前に身体が動いている」までに発達します。

この神経を発達させるためには、ボールはポンポンとよくはずむ方がよく、また、小さい方がよいのです。ですから「当たっても痛くないフワフワボールやペコペコボール」は実は、運動神経の発達のためには向きません。大人用の大きなボール（5号）も不向きです。子供用のボールは4号ですが、この大きさを1年生から6年生まで使いますので、1年生にとってはやや大きいということになります。

先日の体験会で当クラブが用意した黄色いボールは実は3号の大きさで、かつ、4号の重さがある特別なボールでちょっと割高です。私たちはこのボールを最適だと考えていますが、価格の問題と入手しやすくないことから、無理をする必要はありません。

なお、運動神経を含めた神経系は10歳前後で完成します。つまり10歳までに発達させた運動神経と一生つきあうことになります。

3) 「蹴る」ことを奨励しないこと

サッカーはボールを蹴るスポーツだと思われています。日本語で「蹴球（しゅうきゅう）」と表現しますから。しかし中国では「足球」と表記しますし、この方がfootballの翻訳としてはより正確です。

蹴ることを推奨すると、最初はずつま先で蹴ることが多いはず。そのときパンパンの固いボールだと足先を痛めます。運動神経発達を最初の最重要目的としてパンパンにしたボールのせいで、サッカーを嫌いになってしまう恐れがあります。

自分の身体を自在に操り、同時にボールをも自在に操ることができるようになることが理想です。強いキックがたまたまできたことを褒めず、「曲がれた」「止められた」「速かった」などの動きを褒めてください。

<シューズについて> [このページは7月12に掲載したものです](#)

シューズについてもボールに対するものと同じような考えを持っています。

シューズは「運動靴」「トレーニングシューズあるいはサッカーシューズ」「スパイク」の3つに分類されます。

1) 運動靴

この年齢の子供たちに一番重要なことは、運動をすることです。特に、急に走り出したり、止まったり、曲がったり、飛び跳ねたりすることが重要で、ボールを蹴ることは二の次です。ですから運動しやすい靴であれば何であっても構いません。

一つだけ注意するのは、靴底の厚さです。バスケットシューズなど靴底の厚いものは足の裏でボールを扱う際にボールの感触が伝わりにくく、サッカーには向いていません。

また、靴紐の有無について別な注意点があります。2年生からは靴紐で調整できる靴を使ってもらいますが、自分で結ぶことが条件です。1年生のときはマジックテープやゴムを使っている靴紐のないシューズでもOKですが、2年生からはダメです。1年生のうちに自分で靴紐が結べるように練習する必要がありますが、関前サッカーのコーチは練習中に子供の靴紐を結んでくれません。ここが肝心です。

2) トレーニングシューズ

サッカーシューズとしてあるいは略称トレシューとして販売されています。運動靴との違いは、値段が少し高いこと、靴族が樹脂でできていて比較的薄いこと。子供がサッカーに夢中になったら買ってあげてもよいと思います。親がサッカーをやらせたいばかりに割高なシューズやボールを最初から買い与えた子供で、高学年になって東京都代表や地域代表になった選手はいません。親と子供の熱意は、親が大きく先行しては逆効果です。

3) スパイク

スパイクは使いません。小学生では使わない方がよいというのが私の考えですが、高学年になって条件を満たしたらスパイクにするのもアリだと思います。

スパイクの特徴は靴底が固い樹脂でできており、間違った蹴り方をしても足が痛くないという特徴を持ちます。つまり、間違った蹴り方が定着してしまう恐れがあります。

スパイクは割高で、それを売るために「メッシと同じ!」とか「色とかがド派手」といった特徴を持ちますが、これらに騙されてはいけません。そもそも昔は25cm以下のスパイクなんて売っていなかったのですが、買い与える親が（特に日本に）存在することをシューズメーカーが気づき、それに乗ってしまっている人たちが一定割合いるということなのでしょう。

<世話人の役割と決定> 7月14に掲載**1) ボランティア**

学年ごとに二名ずつの世話人を決めて運用しています。2年生以上の世話人は昨年度末に既に決めてあり、運用中です。また、4年生以上になると世話人の他、マネージャや会計係、書記係などの役職があり、保護者の中から互選で定めています。これらの役職を担っていただいている方を役員と呼んでいます。

関前サッカークラブはボランティア運営団体ですので、これら役員と我々コーチ陣はいずれも無給のボランティアです。もし「立候補する人」がいなくなれば、この団体は存続できないこととなります。

2) 世話人

世話人とはその学年の保護者のみなさんとクラブとの連絡を中継してもらう連絡係です。学年担当コーチならびにマネージャと連携し、学年保護者へ展開することが主な仕事です。また、保護者から出てきた質問などをコーチ等に伝えていただくこともあります。

最初に申し上げておきたいことは、世話人ではない人が、世話人をあたかも商業組織の従業員であるかのように、要求や詰問を突きつけたりしてはいけないということです。

例えば月謝の金額が当クラブの年会費と同額ぐらいの商業組織はよくありますが、そこでの連絡係はその組織の従業員であるでしょう。このとき保護者は顧客となります。

しかし当クラブはボランティア運営ですので、世話人は善意で仕事をしてくださる人たちです。質問・要求・詰問などいずれもコーチに直接してください。

世話人は練習の日時・場所・注意点など、みなさんに連絡すべきことをコーチやマネージャから受け、それを伝達する役割なのです。

3) いつやる？

6年間在籍した場合、いずれかの学年で世話人を担当したり、高学年になって役員に立候補してくださる人が多くいらっしゃいます。

低学年のうちに担当しておく、そのときの仕事が楽であるというメリットがあります。

高学年で担当すると、保護者がクラブや少年サッカーのことに慣れてきますので、伝達事項がスムーズに流れるというメリットがあります。

デメリットはいずれもこれらの裏返しとなります。

1年生の兄や姉が上の学年にいる人が、1年生の世話人をやったださることが多く、コーチやマネージャとの連携がスムーズという長所があります。一方、「今年度なら出来るのに」という人がいれば優先したいとも思います。

「やってもいい」という方は佐藤宛にメールください。

<保護者の練習ヘルプ> 7月14に掲載**1) 1年生・2年生・3年生の違い**

1年生の練習では、その日・その場で父親・母親に飛び入りで練習に参加してもらい、手伝っていただいています。このヘルプがないと練習になりません。

2年生になると、ヘルプくださる方が固定的となり、ほとんど父親だけとなります。

3年生では、保護者ヘルプは要請していません。コーチだけで練習を進めます。「ヘルプ」と「コーチ」の間に明確な線引きをしており、後者は組織の一員として責任を担い、また、指導者資格や審判資格などを取得していただきます（クラブの経費から）。これらのことから2年生のヘルプをしてくださる方たちは、「来年度、コーチになるか、あるいは保護者として応援と見学に専念するか」を考えながら過ごしていただいているようです。

私、佐藤を含めた多数のコーチは子供が3年生のときにコーチになった経緯を持っており、子供が卒業しても自分は卒業しないという感じです。あと、コーチにはOBもいますが、こちらは若いのでわかりやすいと思います（ただし最年長OBコーチは40歳越え）。

2) 1年生にとって大事なこと

「サッカーが楽しい」「関前が楽しい」と感じてもらうことが最重要課題であり、このときの経験と思い出が子供の一生の宝物になると私たちは信じています。

1年生にはサッカーを教えるという抽象的な表現ではなく、「止まっている子供を走らせる」「走っている子供を曲がらせる」「怖がらずにボールに突っ込んでいく」「ボールをゴールに向かって運ぶ」「結果ではなく挑戦そのものを楽しむようにさせる」といったことを優先してコーチングをしています。

ですから1年生の保護者ヘルプは、ボールを足下に置いている子供を走らせ、曲がらせ、キッカーキッカー言わせ、興奮させ、取られたボールを取り返すように仕向け、何かをやろうとしたことを褒め称え、それが出来たら「すごい!」「天才!」などと、出来なかったら「惜しい!」と声を掛けます。決して子供のプレーを否定したりはしません。「こうしなさい」「それはやめなさい」は大人の価値観の押しつけであり、この種の親のもとでは子供はだいたい4年生前後でサッカーを辞めます。

3) 今年度の特別な運用（コロナ対策のために）

今年度は、2年生は「保護者のヘルプなし」で運営しています。ですからコーチを比較的多く配置しています。しかし1年生にこれは出来ません。必要な大人の数が多くなりすぎるからです。7月11日の練習では特別に中学生（私が中学校で教えている選手たち）を呼びました。今年度、コーチと同等な覚悟と責任のもとで「暫定コーチ」みたいな位置づけでヘルプくださる方、メールください。コロナ感染の恐れが高い仕事・生活・趣味の方にはご遠慮いただきますが。

新1年生・入団説明会（第二回）

<背番号の決定> 7月14に掲載

1) 二つの背番号

背番号には二つあり、一つは練習着につける番号であり、もう一つは高学年になったときに使う試合用ユニフォームの番号です。

後者はコーチが各選手の番号を決定します（4年生の時に決めますが、その後変更あり）。

前者は1年生のときに希望に応じて、ただし重ならないように決定します。

2) 過去の名選手？

その子は入団が3年生のとき、と少し遅かったため、希望する番号はすべて他の子供たちが既に使っていました。12番という、よく「サポーターを意味する番号」として知られている番号であったため、その子は最初いやがりましたが、この選手は関前初の東京都代表選手に選ばれ、ソウル代表などとも戦いました。

その子の兄の「お古が使える」ということで、兄と同じ2番をつけることになったこの子は、この番号が気に入らない様子でした。真面目だった兄と比較すると、やる気があるときに少なかったその選手は、あるとき目覚めたのでしょうか、いま、J1（Jリーグ1部）の登録選手です。

その子は入団時期が少しだけ遅れたせいで、22番という番号になりましたが、背番号などを気にしない「火の玉小僧」で、私の20年以上の経験で最も印象深い子でした。高校選手権、大学選手権で優秀・準優勝チームの中心選手として活躍しました。

3) 「お古の活用」を優先させてください

兄や姉がクラブに所属している場合、お古を活用するために、兄・姉と同じ番号を希望する人が必ずいます。その人に希望する番号を譲ってください。今回も数名います。

4) 父親の思い込みが悲しい結末になるケース

10番、11番、7番などが人気ありますが、多くの場合、父親の価値観が子供に強く影響しているはずで。

親の熱意が子供のそれを遙かに上回る場合、私は、悲しい結末をたくさん見てきました。

3年生ぐらいになると10番がどういう番号かを子供も理解し始めます。父親の過大な期待、それに気づき、かつ、期待に応えられない自分をさげすんでしまう子供の悲哀。

こんなことにならないようにしましょうね。

5) 希望の背番号を佐藤までメールしてください

以上